



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年 11月

五感をとおして味わう感動

秋が深まっていく中、子供たちは校外学習に出かけ、それぞれの学年に応じた貴重な体験を重ねることができました。子供たちは、学校へ戻るとすぐに「見たり、触ったり、聞こえたりしたこと」について、とても嬉しそうに話しています。日頃の校内での授業では味わうことのできない、校外学習ならではの「豊かな時間」を過ごせた充実感に満ち溢れているようでした。

子供の感覚は柔軟で、正直で、鋭いと思います。きれいな景色に時を忘れて見入ったり鳥の鳴き声や川のせせらぎに聴き入ったり、旬の食べ物や自分が育てた野菜等を食べておいしいと感じたり、花や植物の匂いを嗅いで癒されたり…。感覚が冴え渡っている子供の時期に、五感のすべてを総動員させて、見て、聞いて、触れて、感じる「感動の体験」をできるだけ多く経験してほしいと願っています。

子供、大人を問わず、私たちは読書をしたり音楽を聴いたり、あるいは美しい風景に出会ったりしたときに「感動」を覚えることがあります。また、何かをやり遂げたことや友達と楽しく活動できた体験を通して、「感動」します。こうした「感動」が積み重なっていくことで、一人一人の人生が豊かになっていくのではないかと思います。

また、人間の感情は五感によって生み出され、さらに、心揺さぶられる感情は生きていくための行動を生み出すとも言われます。子供たちの五感を鍛えてやることで、「アイデアがひらめく直感力」「相手の気持ちを思う力」「生きていく上で欠かせない情緒的な感情」「危険を回避する能力」等が育つなどの良い影響があるとも言われています。

私たち大人が育った頃とは異なり、現代の子供たちは五感を鍛えられるような生活ができていないかもしれません。とはいえ、大人が少し意識して手を貸してやることで、体験できることはたくさんあると思います。特に、自然体験は五感を十分に使った感動体験ができる「絶好の学びの場」ではないかと思います。幸いなことに、校区には思い切り身体を動かして遊ぶことのできる公園が身近にあります。また、立山町は、車で山や海へ出かけても、それほど時間がかからない恵まれた場所です。私たち大人も、「子供と一緒に遊ぼう」という気軽な気持ちで、地区の自然に五感をとおして親しみ、たくさんの「感動」を味わう機会をもちたいものだと思います。



1年校外学習（11月4日、5日、8日）
国立立山青少年自然の家で「あきみつけ」をしました。